

# 平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

## 4 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

**平成30年度 市岡東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

**1 全国学力・学習状況調査**

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	学校	91	69	57	55	37	56	4.8	4.7	6.5	21.1	7.5
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

**2 中学生チャレンジテスト**

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	89	46.7	42.6	52.2	49.5	50.6	20.5	5.0	11.3	9.2	4.5
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月6日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6
2年	学校	70	52.4	57.2	62.3	64.9	48.1	7.7	3.3	8.8	2.6	5.2
	大阪市	—	55.9	52.3	60.7	55.7	49.8	6.9	5.9	9.1	5.9	5.4
1月10日	大阪府	—	57.0	53.4	61.8	56.6	51.3	7.1	6.0	9.2	6.3	5.3
1年	学校	77	50.5	—	54.9	—	54.0	6.8	—	5.1	—	9.2
	大阪市	—	54.8	—	60.2	—	61.1	6.9	—	6.5	—	6.6
1月10日	大阪府	—	56.2	—	61.3	—	62.0	6.7	—	6.7	—	7.2

※ 2年生の社会はB問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 1年生については、国語・数学・英語のみ実施

**3 大阪市中学校3年生統一テスト**

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3年	学校	87	56.9	56.1	54.9	52.0	56.0
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

**4 大阪市英語力調査 (英検IBA)**

学年		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
3年	学校	84	58.5	49.3	50.5	42.9	—	—
10月29日	大阪市	—	62.6	52.2	53.2	52.8	—	—
2年	学校	71	71.4	56.2	62.1	—	69.0	—
10月29日	大阪市	—	71.2	58.5	65.0	—	69.2	—
1年	学校	78	57.7	56.7	62.8	—	—	82.1
10月29日	大阪市	—	56.5	53.2	63.3	—	—	79.4

# 平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 調査結果から

### 【成果と課題】

#### 1年生

##### 〔国語〕

場面の展開や登場人物などの描写を理解し、正解を選択することはできていた。しかし、伝えたい事実や事柄について根拠を明確にしてかいたり、自分の意見が伝わるように表現することができていない。

##### 〔数学〕

ほとんどの設問において大阪府の平均正答率を下回り、全体では大阪府の平均61.3ポイントに対し、本校では54.9ポイントと6.4ポイント下回る結果となった。その中でも正の数・負の数の加減乗除等の問題で10ポイント近く平均正答率が下回っており、基本的な計算力の定着に課題がある。

##### 〔英語〕

大阪府平均と比較すると8ポイント下回った。特に、読解力を問われる問題、記述する問題に課題がある。

#### 2年生

##### 〔国語〕

文の構成や文節の働きについての理解が不十分である。文脈における語句の意味をとらえたり、登場人物の言動の意味をとらえるなど深く考慮する力が弱い。

##### 〔社会〕

教科書のみならずICT機器を活用することで、生徒の理解が更に深まった結果として府の平均を超えることができた。課題としては、教科書本文以外の説明や予備知識を深めることである。

##### 〔数学〕

全ての設問、また全体においても大阪府とほぼ同等の平均正答率となった。しかし、連立方程式と1次関数や1次関数と図形など分野が多岐にわたる問題については極端に正答率が低くなってしまっており、発展問題を解決する力を育成する必要がある。

昨年との経年比較をすると大阪府の平均に対して-6.4ポイントから+0.5ポイントと6.9ポイント向上した。少人数指導の成果が出たと考えられる。

##### 〔理科〕

大阪府平均を8.3ポイント上回っていることから、ある程度基礎学力の定着が見受けられる。

##### 〔英語〕

言語や文化についての知識・理解については、大阪府の平均を超える成果がでた。課題は記述式の問い合わせに対する無解答率の高さで、授業での対応が必要である。

### 【今後に向けて】

#### 1年生

##### 〔国語〕

現代文・古文ともに記述する力が弱いので、書く力を持つよう普段から自分の意見をまとめる練習をさせる。古文は不慣れなため、苦手意識が強い。今年度の学習内容の復習を徹底し、来年度の学習につなげたい。

##### 〔数学〕

## 平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

基本的な計算力の向上のために、問題演習を充実させる。

### [英 語]

基礎となる読解力を向上させる授業を展開し、語彙力を高めるために単語テストを実施し、文を読ませる量を増やす。

### 2年生

#### [国 語]

文章の基本となる文法的な事項が身についていない。文章読解においても、表面的な理解にとどまらずに様々な事柄を総合して心情や状況をとらえる力をつけさせる。

#### [社 会]

今後も継続してICT機器を活用し、生徒のより深い内容理解へつなげる。

#### [数 学]

発展問題を解決する力だけでなく、基本的な力を身につけさせる必要がまだまだある。

#### [理 科]

基礎学力を向上または維持させながら、入試問題レベルの発展的内容の習得に努める。

#### [英 語]

基礎的な文を組み立てることや対応している文を理解することは概ね達成できており、その基礎となる部分を4技能を通して発展させていくことで、自分の解答に自信を持たせることができ、今後の取組にいかせる。